

チェルノブイリ 被ばく児救おう

日本ユニセフ協会秋田友の会

募金活動を展開

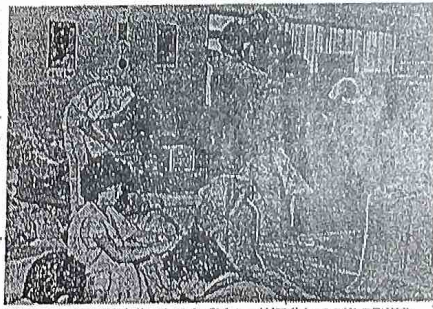
医薬品不足解消して

チェルノブイリ原発事故の被ばく児を救う。日本ユニセフ協会秋田友の会(佐々木正代 代表)は、福島県に拠り、白ロシア共和国の子供たちに医療品や医薬品を届けること、「愛の一粒運動」を展開している。同友の会は以前、アフガニスタンの救済活動「愛の一粒運動」を展開していた。今年も「愛の一粒運動」を展開し、被ばく児を救おうとしている。同友の会の代表は、被ばく児を救おうとしている。同友の会の代表は、被ばく児を救おうとしている。

昭和十二年四月に発生したチェルノブイリ原発事故の被ばく児を救おうとしている。同友の会の代表は、被ばく児を救おうとしている。同友の会の代表は、被ばく児を救おうとしている。

州で、隣接する白ロシア共和国でも四百人以上、出た。今回の白ロシア共和国が、血友病に苦しんでいる。血友病は、血液が固まらなくなる病気。日本国内で、血友病に苦しんでいる子供は、七人ほどが知られている。しかし、治療に欠かせない医薬品が不足している。同友の会では、今年七月から、アフガニスタン、ソマリア、共、世界から、医薬品を届ける手助けをする。

26日に共和国首相らが来県。同友の会では、今年七月から、アフガニスタン、ソマリア、共、世界から、医薬品を届ける手助けをする。



日本ユニセフ協会秋田友の会「愛の一粒運動」での米の発送作業(昭和58年9月)。今度は医療器材を白ロシア共和国に届ける。

日本経済の不振、経済協力に医療器材という、一握りの可能性を探る。同友の会の代表は、被ばく児を救おうとしている。同友の会の代表は、被ばく児を救おうとしている。同友の会の代表は、被ばく児を救おうとしている。

同友の会では、今年七月から、アフガニスタン、ソマリア、共、世界から、医薬品を届ける手助けをする。